

試験開始の指示があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。

2025 年度

北海道千歳リハビリテーション大学 一般選抜試験問題 前期日程

必修科目

国 語

注 意 事 項

- 1 文字や記号は明確に判読できるよう丁寧に記入しなさい。
- 2 この問題冊子は、6 ページあります。
試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚れ等に気づいた場合は、手を高く挙げて監督者に知らせなさい。
- 3 問題用紙の余白等は適宜利用してかまいません。
- 4 問題冊子は最後に回収します。

第一問 次の文章は、児玉真美『安楽死が合法の国で起こっていること』（二〇二三年発表）の一部分である。読んで、後の問いに答えなさい。なお、設問の都合で表現を一部改めている。

重い障害のある娘を持つ親の立場で、これまで36年間それなりに濃密に医療と付き合い合ってきた。医療について患者家族の立場で思うことは多々ある。いつのまにか海外の障害と医療や生命倫理をめぐる事件や議論を追いかけるようになったのも、今にして振り返れば、重い障害のある娘を通じて医療と関わってきた個人的な体験が原点だった。

36年前、娘が生まれて初めて①頻繁に赴くことになった大病院は、一般社会の常識ではとうてい計れないことばかりが起こる不思議な世界だった。そのあまりの不思議に、訪れるたび目の前がくらくらするような思いになった。

当時の私は31歳で、大学の専任講師をしていた。②ジャクハイながら一人前の社会人のはずなのに、病院に一歩足を踏み入れた瞬間からA外での身の丈が半分くらいに縮んだような気がする。何も悪いことをしているわけではないのに、

どこへ行っても上から目線でバカにされ、叱り付けられる。

イ

小学生に戻って、学校中の先生から取り囲まれ

て③ジャケンに小突き回されているみたいな気分だ。いつのまにか、受付に書類を出すにも「オネガイ……しまあ……す」と卑屈な上目遣いになってしまう。まるで大病院という世界には、患者と家族を卑屈にする魔力でも潜んでいるかのように――。

Bそこは「白い人」の国。そして、この「白い人」たちというのが、たいそう不思議な生き物なのだった。一見当たり前の人間に見えるが、いろいろとフツ―でない。まず、みんな一様に態度がデカくて冷たい。笑わない。ろくにしゃべらない。たまに口を利いたと思うと、乱暴な命令口調か④叱責口調。その不思議な国には⑤レキゼンとした身分制が敷かれていた。一番上が「真っ白い人」である医師で、職種ピラミッドの下へ行くにつれ、その「白」が少しピンクやブルーが

かってくる。患者や家族はその最下層。いや、きつとピラミッドに含まれてすらいらない。

□

「白い人」。患者と家族は「それに黙って聞く人」。「白い人」は「命令し、指示する人」。患者と家族は「それに黙って従う人」。それ以外の想定は、その世界には存在しないようだった。

娘に聴診器を当てて後、一言「点滴！」と処置室を指差される。「あのお……やっぱり胸の音が……するんでしょう、か……？」。おそろおそろと尋ねてみるが返答はなく、ぎろりと睨みつけられ、音量3倍増しの「て・ん・て・き！」で返されて、おしまい。

「白い人」の想定範囲を超えて患者や家族がものを問うなんてことは、そこでは許されていない。その世界では、「白さ」によって段階はあるにせよ「白い人」は全知全能であるがゆえに「命じる人」「指示する人」。それ以外はすべて無知無能とみなされ、したがって黙って従う人——。それでも、あの時代にだって本を読めば「インフォームド・コンセント」という言葉だって「チーム医療」という言葉だって、いくつも躍っていたのだから、**C**それがまた不思議でならない。

医療の世界には、どうしてこんなに無神経な人が多いのだろう……。我が子の障害を知ってから年月、私の胸のうちはいつもそういう嘆きがあった。それは私だけではなく多くの母親仲間の嘆きでもあった。

その後、さまざまな医療体験を経^へめぐるうちに少しずつ私の感じ方は変わった。今の私は「医療の世界には無神経な人が多い」とは思はない。30年を超える医療との付き合いの中には、未だに許せない言動の記憶もいくつかあるが、そういう人はマイノリティにすぎないことを今の私は知っている。大半の医療職とは良好な信頼関係を築いてくることのできたし、助けてもらい支えてもらって感謝している。これまで出会った医療職の大半は普通に温かい心を持ち、良心的に仕事をしている常識的な人たちだった。けれど、一方で私の中に「医療職と患者や家族との間には、深くて大きな溝がある」という思いが強くなってきたのもまた事実だ。

Dその「溝」を形づくっているものはいったい何なのだろうとずっと考えてきた。今の私は、それは個々の人間性の欠

落という問題ではないのだろうと思っている。ハ、明らかに人格上の問題があるとおぼしい医療職は今なお見かけるけれど、やはり例外的な存在だろう。

その一方で、どんなに誠実に仕事をしている心温かい医療職の中にも、私たち患者や家族から見れば「医師的なもの」「看護師的なもの」「医療専門職的なもの」と呼ぶしかないものが潜んでいる。それが何かの折に私たちとの間に「溝」を作り、私たちを平然と傷つける。私たちが勇気を振り絞って挙げた声や思いを無感覚に弾き返してしまう。そんな体験を、重い障害があつて医療との関わりを離れられない子どもを持つ親たちは、これまで繰り返してきた。今も体験し続けている。

その「溝」を形づくっているのは多くの場合、誰かの悪意ではなく、誰かが医療職になつていくプロセスで、あるいは医療の世界で働く年月の中で、二医療職としての善意や熱意を通してこそ無意識のうちに身につけられていく何か。あるいは知らないうちに取り落としていく何か。私たち患者や家族からは「医師的なもの」「看護師的なもの」「医療専門職的なもの」としか形容しようのない何か――。医療の世界に特有のものの見方、考え方、あるいはそこに内在してきた価値観や慣例、そこに含まれる偏向、ある種の「いびつさ」のようなもの――。そんな形容をするほうが正確なのかもしれない。

最近は重い障害のある人の親としてだけでなく、高齢患者の家族や自分自身が患者としても病院のお世話になることが増えたが、剥き出しの命令口調やあからさまに見下しバカにする言動はとつくに消えた今でも、その「いびつさ」は医療現場に偏在し、見えない壁となつて私たち患者家族と医療専門職の間を隔てている。

私が医療専門職と接する時にいつも感じてきたギャップのひとつに、「医療」と「生活」の関係性の違いがある。「生活」というのは英語のLIFEのように人生、生きるということまで含めた広いイメージなのだけど、ここでは「生活」という言葉で代表させてみる。私たち患者と家族にとっては、(1)「 」は大切なものであるけれど(2)「 」

の一部にすぎない。もちろん急性期のように、一時的に「(3)」を優先させて暮らさなければならぬ場面はあるにせよ、私たちにとっては「(4)」の方が「(5)」よりもはるかに大きい。けれど医療職では、その大きさが逆転している感じがする。医療職と話をしていると、「(6)」の方が「(7)」よりも圧倒的に大きい、医療が生活よりも常に優先されていると感じる。

ホ、地域包括ケアの推進が言われ始めた頃に、病院の医師の一部から「地域の街路を病院の廊下にするぞ！」と張り切る声が聞こえてきた。地域にきちんと医療を届けようとの意気込みはありがたいけれど、そうやって地域の家庭を病院の病室扱いし、私たちの生活の場に急性期病院の価値観で踏み込んでくるのはカンベンしてほしいと、「生活者」である患者サイドは思った。

私は「地域の街路を病院の廊下に」「地域の家々を病院の病室に」などと聞くと、娘のベッドサイドに付き添う母が食事中だろうが着替え中だろうがおかまいなしで、声がしたと同時に（人によつては声もかけずに）さっとカーテンを引いて医師が現れて、ぎよつとさせられた場面がいくつも頭によみがえる。そんな病院の「白い人」文化のまま、患者と家族が主体として暮らしている家庭に**I**と踏み込んで来てもらったのでは困る、と思う。

重い障害のある子の親になって以来、医療をはじめとする専門職と付き合いながら、私はいつからか、**E**専門職つて「懐中電灯」なんだなあと感じるようになった。先のLIFE（生活、人生、生きるということなど）を仮に広い部屋だとイメージすると、専門職というのはその中のごく狭い一部を照らし出してくれる懐中電灯なのだと思う。LIFEという部屋はホールや会議室のような整然とした場所ではなくて、そこには家族のこれまでの歴史の中で蓄積された**II**なものが雑然と詰め込まれている。叩いたら舞い上がるほこりも積もり積もっているだろうし、隅っこの暗がりには臭いものや汚いものも淀んでいるに違いない。うっかり戸棚でも開けようものなら、ガイコツが隠されていて度肝を抜かれることだってあるかもしれない。そんな、一筋縄ではいかないものが人生というものであるからこそ、医

療や福祉が本当に本人と家族のために機能するには、いくつもの種類の専門性をもった懐中電灯が集まって、その部屋をいろんな角度から照らし出してくれる必要があるということなのだと思う。

問一 傍線部①～⑤について、カタカナは漢字に直し、漢字はその読みをひらがなで書きなさい。

問二 空欄 **イ** **ホ** にあてはまる語を次の中から一つずつ選び、記号で答えなさい（ただし使用は一度のみ）。

- a なにしろ b むしろ c 例えば d まるで e もちろん

問三 空欄 (1) (7) にあてはまる語を次の中から一つずつ選び、記号で答えなさい。

- a 医療 b 生活

問四 空欄 **I** **II** にあてはまる四字熟語を次の中から一つずつ選び、記号で答えなさい。

- a 種々雑多 b 空前絶後 c 前後不覚 d 意気揚々 e 支離滅裂

問五 傍線部A「外での身の丈が半分くらいに縮んだような気がする」とあるが、「私」をそのようにさせるものは何か。
本文中から十五字以内で抜き出して答えなさい（句読点も一字に数える）。

問六 傍線部 **B** 「そこは「白い人」の国」とあるが、「そこ」とはどこを指すか。本文中から三字で抜き出して答えなさい。

問七 傍線部 **C** 「それがまた不思議でならない」とあるが、どのようなことが不思議なのか。本文中の言葉を用いて六十字以内で説明しなさい（句読点も一字に数える）。

問八 傍線部 **D** 「その「溝」を形づくっているものはいったい何なのだろう」とあるが、筆者が考える「溝」を形づくるものの例としてふさわしいものはどれか。次の中から二つ選び、記号で答えなさい。

- a 医療や生命倫理をめぐる事件や議論。
- b 個々の人間性の欠落という問題。
- c 人格上の問題があるとおぼしい医療職。
- d 医療の世界に特有のものの見方、考え方。
- e 地域にきちんと医療を届けようとの意気込み。

問九 傍線部 **E** 「専門職って「懐中電灯」なんだ」とあるが、筆者が理想とする「懐中電灯」の照らし方はどのようなものか。本文中から五十字以内で抜き出し、その最初の五字を記しなさい（句読点も一字に数える）。

受験番号	
------	--

第二問

問一	<table><tr><td>①</td><td></td></tr><tr><td>②</td><td></td></tr><tr><td>③</td><td></td></tr><tr><td>④</td><td></td></tr></table>	①		②		③		④																																																						
①																																																														
②																																																														
③																																																														
④																																																														
	<table><tr><td>⑤</td><td></td></tr></table>	⑤																																																												
⑤																																																														
問二	<table><tr><td>イ</td><td></td></tr><tr><td>ロ</td><td></td></tr><tr><td>ハ</td><td></td></tr><tr><td>ニ</td><td></td></tr><tr><td>ホ</td><td></td></tr></table>	イ		ロ		ハ		ニ		ホ																																																				
イ																																																														
ロ																																																														
ハ																																																														
ニ																																																														
ホ																																																														
問三	<table><tr><td>①</td><td></td></tr><tr><td>②</td><td></td></tr><tr><td>③</td><td></td></tr><tr><td>④</td><td></td></tr><tr><td>⑤</td><td></td></tr><tr><td>⑥</td><td></td></tr><tr><td>⑦</td><td></td></tr></table>	①		②		③		④		⑤		⑥		⑦																																																
①																																																														
②																																																														
③																																																														
④																																																														
⑤																																																														
⑥																																																														
⑦																																																														
問四	<table><tr><td>I</td><td></td></tr><tr><td>II</td><td></td></tr></table>	I		II																																																										
I																																																														
II																																																														
問五	<table><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>																																																													
問六	<table><tr><td></td><td></td><td></td></tr></table>																																																													
問七	<table><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>																																																													
問八	<table><tr><td></td><td></td></tr></table>																																																													
問九	<table><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>																																																													